

エスクリエイト通信

謹んで災害のお見舞いを申し上げます

この度の「東日本大震災」によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

株式会社 エスクリエイト

発行

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL: 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL: <http://www.screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

踏ん張りどころが続きます

『「日経ビジネス」と「日経ビジネスオンライン」は、3月23日午前0時～24日午後8時にかけて「東日本大震災による企業活動への影響と課題は」と題したアンケートを実施した。

現在（調査時点で）抱えている課題と、（調査時点から）1カ月後に直面するであろう課題をたずねた。対象は、企業や団体などで働く従業員や、経営者などに限定。合計で1315人から回答が寄せられた。

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/manage/20110401/219265/>

（日経ビジネスオンライン 4月4日掲載より）』

役職別で分析した、1カ月後に直面する課題について取り上げようと思います。詳細は紙面を参照ください。

アンケート結果の分析記事では、『役職別で分析すると少し違った点が見えてくる。「会長・社長」では、1カ月後の課題として、「震災の影響による業績悪化」に次いで「資金繰り」が2位に入っている。ほかの役職に就く回答者の回答では10位前後となっているのだが、経営トップとすればこの課題を避けては通れない。時間の経過とともに、自社の業績が悪化したり、回収できない資金が明らかになってくるリスクがあるので、そうなれば運転資金の確保は急務となる。（日経ビジネスオンライン 4月4日掲載より）』と分析しています。

今後経済活動において震災の影響は、ボディブローのようにきいてくるでしょう。しかし、良く考えてください。今までの前提（安定した電力供給や安定した部品供給など）が崩壊はしましたが、どんな状況でも先行きは不透明です。例え東日本大震災が起こっていなくても、先行きは不透明であったはず。（日本離れも起こっていました。）一寸先は闇ということわざがあるくらいです。

プラス思考で考えると、見据えておかなければならないリスクが増えただけともいえます。

確かに、より困難な道になったかもしれませんが、しかし、精神論になってしまいましたが、前を向いて進むしかないと思います。しばらくの間踏ん張りが必要ですが、覚悟して挑みましょう。

今こそ、従業員総出の経営施策をとる

◆外と内を診る

①より、注意深く経済の流れを診ること

昨今、グローバルな動きは田舎の町工場にまで影響しています。また、業界内の動きも大事ですが、他業界の動きが影響してくることもあります。企業規模の大小関係なく流れを注視しましょう。そのためには、経営者、営業関係者、客先常駐者など、ありとあらゆるアンテナ利用し情報を収集しましょう。

②より、社内情報の流れをつかむこと

流れの変化に素早く対応する体制をつくるのが大事です。前提として、収集した情報を提供する仕組み、社内で行われている事を把握する仕組みが必要となります。

◆孫子の兵法でも

孫子の兵法はよくビジネスに通ずると言われておりますが、特に有名な一節に「彼を知り己を知れば、百戦して危うからず。彼を知らずして己を知れば一勝一負す。彼を知らず己を知らざれば戦う毎に必ず敗る。」とあります（孫子一謀攻篇）。

相手(彼)の実状	自己(己)の実状	結果
知る	知る	百戦しても危険な状態にならない【◎】
知らない	知る	勝ったり、負けたりする【△】
知らない	知らない	戦うたびに危険に陥る【×】



ビジネスでの「彼」とは外部環境であり、お客様、競合他社、市場環境などがそれにあたります。「己」とは内部環境であり、自社の経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報、情熱)、組織風土、組織体制、業務運営などがそれにあたります。

「彼」を知らない限り、危険な状態になるのです。よほど強い製品を持っていたとしても何時かすたれる時がきます。また、その時の経営環境に合わせた「己」の対応を行わないと、危うくなるでしょう。

◆今がタイミング

重要な経営判断をくだけるようにすること及びそれをスムーズに現場が対応できる状態をつくることをお勧めします。そのためには、情報及び業務の状況を把握する仕組みをつくる必要があります。

仕組みづくりには、従業員の協力が必要となってきます。協力を得られやすい状況の今が、そのタイミングだと思いません。一致団結すべき時である事(日本全体の危機でもある事)は、従業員も解っています。

◆では、必要な仕組みとは？

構築する仕組みは、「見える化」です。「見える化」の効果として、経営や運営の応答速度向上、コスト削減、現場の把握、現場が何をしているのかを自覚できることが挙げられます。

「見える化」を行うには、経営者・管理者のリーダーシップも必要ですが、従業員のやる意識がないと良い効果を出す事ができません。経営者が「見える化」を目的とする場合でも、従業員のやる気を出すために、従業員にはその先に見えるものを経営者・管理者は見せてやりましょう。

「見える化」といっても、「経営の見える化」「作業の見える化」「PDCAの見える化」「コストの見える化」「業務の見える化」「工場の見える化」「営業の見える化」など対応出来る事が沢山あります。会社にとって一番必要なことからスタートしましょう。

新コーナー「本は考える為のサプリメント」

新コーナーをスタートします。「本は考える為のサプリメント」です。考える為の知識を本から学ぶのは大事です。本は人類の英知の結集といっても過言ではないでしょう。

毎月お勧めの書籍を紹介します。ただし、筆者のお勧めなので、面白くなくてもご容赦を。

初回ということもあって、「経営に役立つ教科書」を紹介している本をご紹介します。



「星野リゾートの教科書」(中沢 康彦著)

株式会社星野リゾートの星野社長が経営において実践する教科書を紹介した本です。紹介する本の中では、30冊程度の書籍が紹介されています。

紹介された書籍を全部読むのは大変ですが(といっても星野社長は読まれているのですが)、筆者は「これは!」と思う書籍を手にとり、実践できることから着手しています。手に取るべき書籍の羅針盤ともなりえる本だと感じました。

「自分の直感力を信じられない時に、教科書は自らの経営判断の根拠となり、自信を持って頑張る勇気を与えてくれる。」と記されています。決して天才的な感覚だけで意思決定をしているのではないことがわかります。教科書を読み、それを素直に実践しています。実践を確実にしていることがキモだということが解ります。

この書籍を教科書探しの参考としてはいかがでしょうか。

近況報告

株式会社エスクリエイトでは、「ものづくりの世界を進化させるソフトウェアサービス」を標榜し、ものづくりの世界で数々のソフトウェアを開発してまいりました。今後はものづくり分野と共に業務分野にも、これまで蓄積してきた経験とノウハウを提供していくことを計画しています。今後とも変わらぬご愛顧をよろしくお願いいたします。

編集後記



春です。新年度が始まりました。未曾有の大震災から約1カ月経とうとしています。まだまだ支援が必要になります。マスコミ以外でも、身近なところから「安易な自粛よりも経済活動を活発にして、日本を元気にしていかなければ」という意見をよく耳にするようになりました。本当にその通りだと思います。

先日、50周年を迎える企業の社長と打ち合わせをさせて頂きました。今後の営業戦略の話になったのですが、その際に「派手にはしないが、50周年記念は全店でやる!」と仰っていました。パワーを提供する立場が、逆にパワーをもらいました。やはり、今大事なものは、前に進む事ですね。

